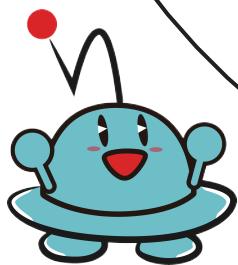
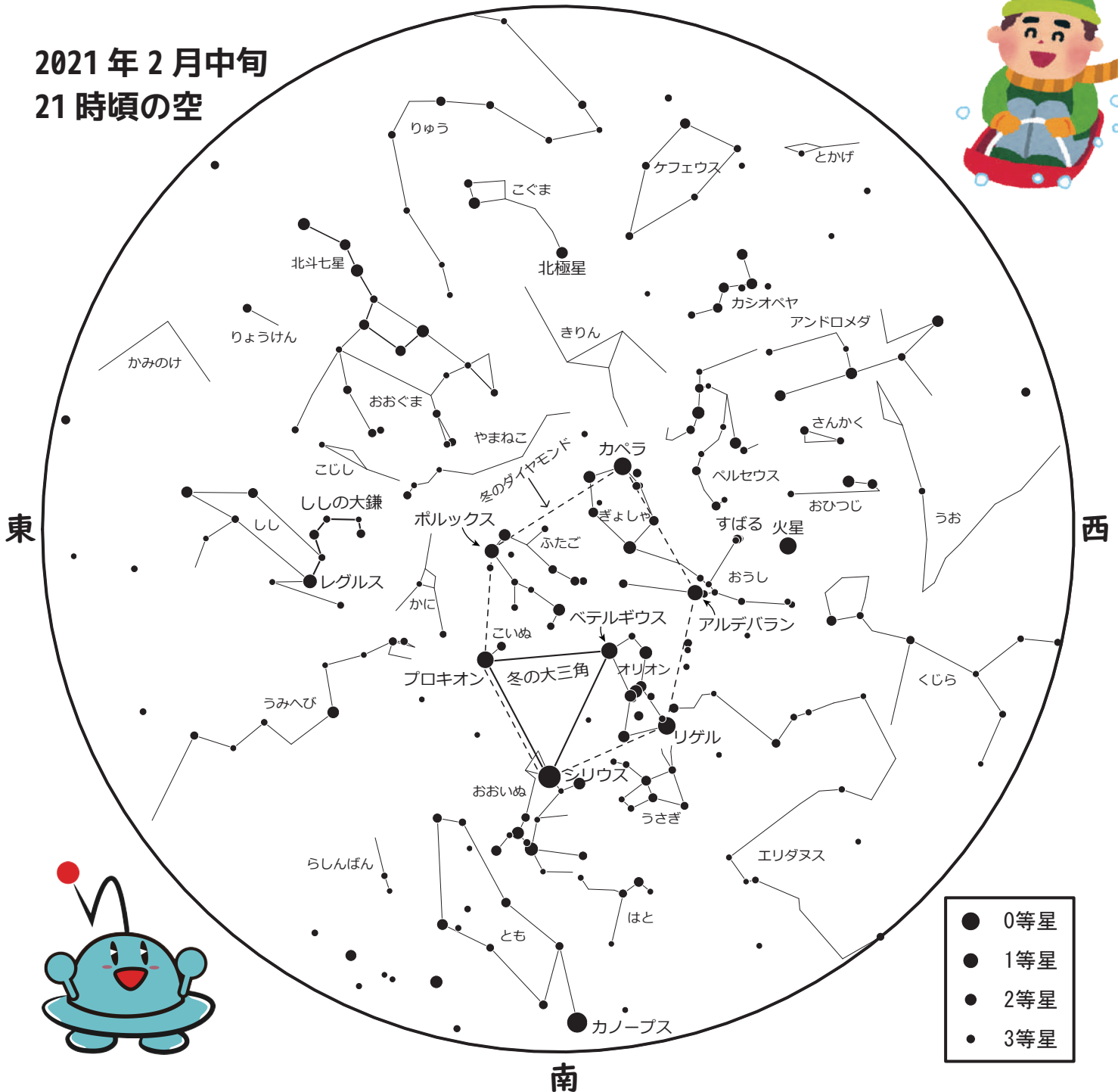


阿南市科学センター 2月の星空案内

北

2021年2月中旬
21時頃の空



南

冬の星空は空気が澄んでいて明るい星が多く、とても見ごたえがあります。寒い日が続きますが、頑張って夜空を見上げてみましょう。すると、空高く昇った冬の明るい星たちが出迎えてくれます。南の空には冬の大きな三角と、赤いベテルギウスを囲む6つの明るい星（シリウス、プロキオン、ポルックス、カペラ、アルデバラン、リゲル）からなる冬のダイヤモンドが輝いています。冬のダイヤモンドは巨大で、初めて見る方はその大きさに驚くことでしょう。東の空には春を代表する星座の一つ、しし座が昇ってきました。しし座には一等星レグルスを含む「？」マークを裏返したような星の並びがあります。これは作物を刈り取る西洋の鎌に似ていることから「ししの大鎌」と呼ばれ、しし座の頭から胸にあたる部分です。ししの大鎌は、しし座を探すうえでの目印になります。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催 / 18時～, 19時～, 20時～】
阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <http://ananscience.jp/science/>

■ 2月の月の満ち欠けと惑星について



下弦
5日



新月
12日



上弦
20日



満月
27日

2月の天体観望会で月が見える日時は？



2/20(土) ・ ・ 全ての回で観察可能



2/27(土) ・ ・ 19時20時の回で観察可能
※ オススメは20時の回

水星：見かけの位置が太陽に近く、観察は難しい。

金星：見かけの位置が太陽に近く、観察は難しい。

火星：宵の南西から西の空に見える。【約0.7等】

木星：見かけの位置が太陽に近く、観察は難しい。

土星：見かけの位置が太陽に近く、観察は難しい。

※各惑星の等級は中旬頃の明るさとなる。



★ 冬の星雲・星団

【馬頭星雲とNGC2024】

オリオン座にある三ツ星の中で一番東側にある2等星は、アルニタクという名前がついています。この星の周りには、美しい2つの星雲があります。1つ目は図1の中心に位置する暗黒星雲の代表格“馬頭星雲”です。暗黒星雲は光を出さないため単体では見えませんが、星に照らされて赤く光る散光星雲(IC434)が背後にあるおかげで暗黒星雲が馬頭の形に浮かび上がって見えています。2つ目はアルニタクの下にある散光星雲(NGC2024)です。手前の暗黒星雲が木の幹や枝、背後のNGC2024は葉が燃えているように見えることから、「燃える木」と呼ばれることもあります。この2つの星雲は非常に淡いため、望遠鏡で見るとは難しいですが、カメラのシャッターを開けて長時間露光することで星雲の姿が浮かび上がってきます。

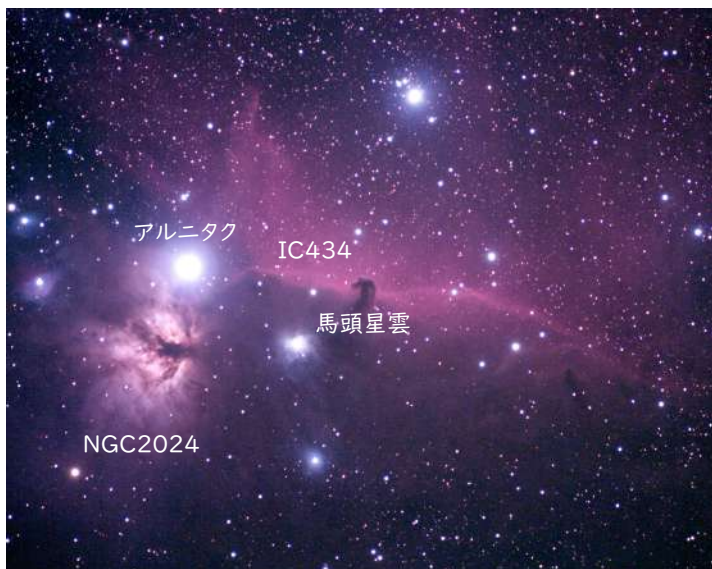


図1：馬頭星雲とNGC2024
(撮影：T. Gondou)

【すばる（プレアデス星団）】

おうし座の肩に位置するプレアデス星団(M45)。日本では昔から“すばる”の愛称で親しまれています。古くは清少納言の枕草子に記され、現在では自動車メーカーSUBARUのロゴマークの由来にもなっています。

すばるは散開星団と呼ばれる種類の天体です。散開星団はガスやチリからなる星雲から生まれたばかりの若い星の集まりであり、すばるはその代表格です。生まれる際に残ったガスやチリがすばるの星々の光を反射して光っている(反射星雲)様子が分かります(図2)。反射星雲の輝きも図1のIC434やNGC2024と同様に非常に淡いため、望遠鏡や双眼鏡で見るとは難しい対象です。



図2：すばる(M45)
(撮影：T. Gondou)